

## <麦類の栽培ポイント>

### 1. 麦の生育状況

今冬の気温は、平年並みまたは高い確率が40%、降水量は多い確率が40%と予想されており暖冬となる見込みです。また、播種時期の11月以降気温が平年より高い状態で推移しているため、平年より生育が進んでいると思われます。今後、麦の生育や圃場の土壌水分に応じて麦踏みを行い寒さに備え、茎数を確保しましょう。

### 2. 麦踏み

- 麦の3葉目が見えてきたら、1回目の麦踏みを行いましょう。生育が遅れている場合は無理に実施せず、3葉目が出てきたのを確認してから実施します。今年は生育が進んでいるので、播種が早かった圃場では早めに2回目の麦踏みをしましょう。
- 圃場が乾燥しているときに実施しましょう。雨や雪によって土壌水分が高いときに麦踏みを行うと、土壌が硬くなって湿害を招いてしまいます。
- 麦踏みの回数は、茎立期直前までに3~4回が目安です。間隔は10日~2週間あけるようにします。過剰な生育を抑え、春先の幼穂凍死を防ぐために、今年は念入りに麦踏みを行いましょう。

麦踏みの効果 ⇒

- ① 分けつを進める
- ② 根張りを良くし、耐寒性をつける
- ③ 霜柱などによる凍上害防止
- ④ 暖冬時、早すぎる茎立ちを抑える
- ⑤ 穂ぞろいを良くする

### 3. 排水対策の徹底

- 排水溝は排水路に繋いでおきます。また、時々排水溝を点検して、必要に応じて溝さらいを行いましょう。
- 排水対策を行うことで圃場が乾きやすくなり、麦踏みを実施しやすくなります。排水溝がまだない場合、早急に設置しましょう。

## <水稻雑草クサネム対策>

- 平成30年産水稻においてはJA足利管内でクサネムが急増しました。クサネムの種子は形状や大きさが玄米に似ていて混入すると篩い分け(ふるいわけ)が難しく、栽培期間中の防除が必要です。しかし、長期間にわたってだらだらと出芽するため、農薬だけでは防除しきれない場合もあります。

クサネムの種子が混入すると玄米検査等級が下がります。また、玄米に混入すると色彩選別機を使わなければ取り除くことが出来ません。

この雑草は根張りが弱いので簡単に抜き取りが出来ます。来年は稲刈り前に圃場をよく観察し、見つけたら面倒でも抜き取りましょう。

## <農業用ハウスの雪害対策>

- 平成26年の大雪は県内各地で多くのハウスが倒壊するなど、甚大な被害を及ぼしました。年数が経過したハウスは強度が低下しています。雪が降る前に必ずハウスの点検を行い、部材の更新や補強対策に万全を期し、雪害に強い農業経営を実現しましょう。

(裏面あり)

## 雪害防止に向けた技術対策

降雪等によりパイプハウスが倒壊する恐れがある場合には、気象庁からその旨の気象情報が発表されます。

これらの気象情報を注視し、園芸施設の管理を適切に行いましょう。

### 事前の対策

1. ハウスの被覆資材の破れや隙間の点検、補修等により、保温性向上に努める。
2. 谷樋など荷重が集中すると思われる部分を特に補強する。
3. 基礎部分が腐食している場合は、パイプの交換や補強資材により、強化を図る。
4. 基礎の沈下を防ぐため、谷樋からのオーバーフロー防止対策を講ずる等、施設の保守管理と構造強化に努める。
5. 停電した場合に備え、かん水に必要な水をタンクに貯めておく。

### 降雪直前からの対策

- ・ チェックリストを活用して、保守管理を確認する。
- ・ 積雪前に内部被覆を開放した上で暖房を行い、融雪対策に努める。
- ・ 積雪深がハウスの耐雪強度を大きく上回る場合は、被覆資材を切断除去することで施設への積雪を防ぐ。

## 降雪前のチェックリスト

情報収集	①	最新の気象情報、警報、注意報を常にチェックしていますか。
融雪準備	②	暖房機の燃油残量は十分にありますか。
	③	暖房機は正常に作動するか確認しましたか。
	④	(発電機を持っている場合) 非常用発電機を加温機、環境制御装置に接続し、動作確認を行いましたか。
補強対策・雪の滑落促進	⑤	ブレースや筋かいの留め金具に緩みがないか点検しましたか。
	⑥	基礎部、接続部分、谷の樋・柱に腐食・サビはありませんか。
	⑦	谷樋や排水路、ハウスの際などの残雪やゴミは取り除きましたか。
	⑧	準備していた中柱をたてるなど応急的な補強はしましたか。
	⑨	作物を栽培していないハウスは被覆資材を外しましたか。
	⑩	被覆材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物はありませんか。
	⑪	雪の滑落を妨げる防風ネットや外部遮光資材等が展張されていませんか。

※ 詳しくは、一般社団法人日本施設園芸協会の「平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」をご覧ください。 <http://www.jgha.com/files/houkokusho/26/yuki.pdf>